

令和5年度

高原小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く・話す」力の育成と学び合いの充実を柱とした授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
(低学年)代表者、(中学年)代表者、(高学年)代表者
(特別支援教育コーディネーター)

校長

山口 茂

【各校の取り組み状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修等での教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則演算等についてはある程度の定着が見られる。 ●基礎的・基本的な内容が身に付いていない児童もあり、学力に個人差がある。 ●語彙力が少なく、問題を読み取る力や文章を書く力に課題がある。	①授業中のきまりを守り、話をしっかり聴いて考えることができる。 ②基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	①学習規律を明確にし、指導する。 ②音読、漢字、計算、意味調べ、視写、聴写などの時間を確保し、繰り返し指導する。 ③個々の特性に合わせた支援を工夫し、分かる授業をめざす。	学習規律を意識しながら指導することにより、「聴く・話す」が定着しつつある。さらに、教師間で学習規律の意味付けを話し合い、学校全体で足並みをそろえて指導していく。 基礎・基本の定着を図るため、毎日の授業を大切に、「わかる授業、楽しい授業」づくりに取り組んできた。音読、漢字練習、計算練習等の時間確保はある程度できているが、意味調べや視写、聴写の時間の確保を行う必要がある。語彙が少ないため、国語辞典や「あわっ子タイムズ」も活用し、新聞の感想や要約、言葉集めなど効果的に学習できるようにする。計算の技能が定着していないので、低学年からの継続的な取り組みが必要である。	学習規律の意味付けについて学年間で話し合い、指導することで、「聴く・話す」が定着してきたが、常に意識できるように声かけが必要である。 基礎・基本の定着を図るため、毎日の授業を大切に、「わかる授業、楽しい授業」づくりに取り組んできた。また、朝の学習タイムで補充学習を行ったり、各学年で習熟の時間を確保し復習に取り組んだり、子ども同士の教え合いをしたりすることで、基礎・基本の定着を図ることができてきた。個人差があるので、休み時間や放課後等に個別指導を行った。音読、漢字練習、計算練習等の時間確保はある程度できた。国語辞典の活用や作文指導も効果を上げている。	年度当初の早い時期に、学校全体で学習規律を徹底させ、系統的に指導できるようにする。また、友達の考えを受けて自分の考えと比べるなどの話し方ができるように、掲示物で示しておいたり、声をかけたりする。1年間を通して、できているかをチェックし徹底させる。 基礎・基本の定着のために、タブレットを使用するなどして繰り返し練習問題をする。 語彙が少なく問題の読み取りが困難な児童もいるので、読書の機会をふやしたり、国語辞典や「あわっ子タイムズ」等を活用したりして、語彙を増やしていく。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを書くことができる。 ●集中力が持続せず、思考までたどり着けない児童がいる。 ●相手に伝わるような表現が難しい児童がいる。 ●友達の意見を聴いて、自分の考えを筋道を立てて話す力に課題がある。	①根拠を明らかにしながら筋道を立てて自分の考えを表現することができる。 ②自分の意見を発表したり、友達の意見と比べたり付け足したりして学び合うことができる。	①問題解決学習を取り入れるなどして、自分の考えがもてるような授業展開、発問、ワークシート、思考ツール等を工夫する。 ②発達段階に応じてペア、グループ学習を取り入れ、意見を交換し学び合う機会を取り入れる。	自分の意見を発表したり、しっかり友達の話を聴いたりする児童は増えてきた。今後は尋ね方や意見の返し方等を工夫したり、語彙を増やしたりすることで、友達の意見と比べたり付け足したりする等の話し合いの深まりができるようにする。書く活動を様々な場面で取り入れることにより、書くことに抵抗がなくなってきた。しかし、主述のねじれがあったり、目的に応じた文章が書けなかったり、自分の考えを明確に表せなかったりするなど十分ではないので、ワークシートや思考ツール等を工夫していく。ペア、グループ学習を取り入れることにより、自分の意見を言う児童が増えてきた。	発問やワークシート、思考ツール等を工夫し、書く活動を多く取り入れたことにより、児童一人一人が自分の考えをもつことができるようになった。 ペアやグループ学習を取り入れることにより、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりすることができ、話し合いの仕方が身に付くとともに、活発に話し合い活動ができるようになってきた。書く活動を多く取り入れることにより、書くことに対する抵抗が少なくなってきた。高学年では、ICT機器を効果的に活用することで、意欲的に作文を書くことができた。	「話の聴き方・発表の仕方」についての指導を継続する。また、ノートやワークシートなどを活用し、書く活動を多く取り入れ、書くことに抵抗のある児童への細かい支援をする。また、尋ね方や意見の返し方等を工夫したり、語彙を増やしたりすることで、友達の意見と比べたり付け足したりするなど話し合いが深まるようにする。 ペア、グループ学習を継続していく。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の課題にまじめに取り組んでいる。 ○先生や友達の話を聴こうとする態度が育ってきている。 ○家庭学習の習慣がついている児童が多い。 ●自分の考えや思いを進んで書いたり話したりすることが苦手であると感じている児童が多い。	①学習活動や家庭学習に計画的に取り組む、楽しんで学習しようすることができる。 ②自分の思いや考えを進んで書いたり話したりすることができる。	①めあてと振り返りを大切に、児童が見通しをもって学習に取り組める授業を実践する。 ②主体的・対話的な深い学びの視点から、話し合い活動を取り入れた学習の充実を図る。 ③個々の特性に合わせた支援を工夫し、ICT等を活用して分かる授業をめざす。 ④「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の時間と質を確保する。	めあてを明確にし、見通しをもった授業を行ってきた。今後は、自ら考える時間や仲間と学び合う時間、めあてを踏まえた振り返りの時間をしっかりと確保し、さらに主体的に学習に取り組めるよう指導・支援していく。 ICT機器を活用して全体での意見の交流ができるようにする。 家庭学習の習慣がついている児童が増えている。自主学习については個人差が大きいので、手本となるノートを紹介する等の支援ができるようにする。引き続き、家庭と連携し、家庭学習の時間、質を確保する。	毎時間めあてを板書し、振り返りの時間をもつことで、見通しをもち主体的に学習に取り組むことができた。 授業中は体験的な学習を行ったり、ICT機器を活用することにより、児童が興味関心を継続し学習に取り組めるようにした。また、ワークシートやヒントカードの作成などを工夫し、分かる授業を行うことにより、主体的に取り組もうとする児童は増えた。 宿題には取り組んでいるが、自主学习は、内容や量に個人差がある。自分で考え大事なことをまとめたり、練習問題をしたりして力をつけてきている児童も増えてきている。	引き続きめあてを明確にし、見通しをもった授業を行う、自ら考える時間や仲間と学び合う時間、振り返りの時間を確保し、さらに主体的に学習に取り組めるよう指導・支援していく。 ICT機器を活用した学習を工夫する。 自主学习の仕方を家庭にも伝え、家庭にも協力を得るようにする。手本となる自主ノートを掲示するなどして、参考にできるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

